



6-0357

0441





第九類  
特  
通  
凡

内申

西郷宗隆官試補ノ最近未頼リニ本職ヲ辞シ外  
宗官番學生ニ兼セリ暫時尙國ニ留學セ  
任付テ切願ヒテ其日人ノ最近未頼リノ學問  
ニ勤メテ其學問質温厚其性重ニシテ神宗殊ニ清  
雅ニシテ至ん如ク人ノ敬愛ヲ受リ人ノ之志願モ  
亦必待テ其宗官ニ勤勉セシメテ其熱心ヲ見  
味上ノ善キ教育ヲ受ケテハ必外宗官ノ向キテ相  
之所得ノ相立可申存殊ニ本人ノ英法ニ長  
備語  
モ亦少シク學問ヲ修シテ其英法ノ音調如  
キ日本ノ人ニ稀有ノ善ナルモノニハ本人ニ於テ可相  
成所ノ善キ女暫ク尙國ニテ其英法ノ語  
ヲ學問シテ其道ニ通シテ上ノ善キ法中殊ニ

在米國日本公使館

宗隆ノ際自心ナルモノヲ學問ヲ修シテ其英法ノ語  
ヲ修メテ其英法ノ語ニ長備語  
ニテ用語トシテ其英法ノ語ニ長備語  
ク外國ノ其語ニ通達シ然レバ何事ヲモ深ク解  
ナシトスルハ其語ニ通達シ然レバ何事ヲモ深ク解  
ハシモ道理ナキコトヲラストモ有テ可相成所  
ハ其宗隆ノ人本官ヲ兼セリ其宗隆ノ人本官  
番學生ニ任付尙分尙國ニ留學セリ其宗隆ノ人本官  
任相成所ノ善キ女暫ク尙國ニテ其英法ノ語  
代人ノ其語ニ通達シ然レバ何事ヲモ深ク解  
ト任付リテ其語ニ通達シ然レバ何事ヲモ深ク解

6-0357

0444



此書ノ系稿ハ概密掛アル者更ニ区ト題スル者冊中

ニアリ 編者附言

明治廿年六月二十日付日書  
概密送知六二二号

在米五

特叙主権公使九鬼隆一様外務大臣御井上野郎  
左儀在勤交際官試補西郷榮次郎依預書  
友ウ先セシテ致シ生同人ハ米五為學ヲ叙ス  
叙生書及左儀在勤公使致書記生野郎改  
一叙等年俸之致シ生書在令四通及送付其  
書本人ハ生借書之上受書生並廻方之致シ  
板中在致書也

外務省

交際官試補西郷榮次郎

依預免書友

明治廿年六月二十日

内閣

西郷榮次郎

米五為學ヲ叙ス

但學費トシテ一ヶ年銀債千貳百圓支

給ス

明治廿年六月三十日

外務省

○本文中ニ云ル贈答ノ詞スル件ハ此ノ 編者附言

○此書ノ原書ハ機密物ニテ其後ニ退下懸スル書冊中  
ニアリ 編者附言

明治廿年七月廿八日付日年九月百知受券八六九号  
機密券第十八号

機密券送第六二二号ヲ以テ當館在勤交  
際友試補西郷菊次郎依預本友ヲ免セラレ  
存生書目人ノ米玉為學ヲトシ取テ存生書  
及筆記生理省政一叙等著作之存生書共  
与四通送回付友成隣ニ由由示之概存取  
在八四通共友ノ中人共ハ在在申於本人共請  
書在添取差多由生ニ由生於敬具

明治廿年七月廿八日 在米玉

特家多權公使九鬼隆一

外務省

外務大臣依井上 嘉彦 敬

○本文中ニ云ハル所皆ノ件ハ前ノ 編者附言

所載

生清堂

交際友試補西郷菊次郎

依預免本友

明治廿年六月三十日

内閣

友徑于生清堂

明治廿年七月廿六日

西郷菊次郎

生清堂

西郷菊次郎



今般為修學滿三箇年米國留學被命候  
付テ留學中矣歸朝後トモ固ク御規則、旨ヲ遵  
奉シ誓テ違背不仕候仍テ誓書差出候也

明治廿年七月廿六日

廣見島縣士族

本人 西郷菊次郎



東京府華族

保証人

伯爵西郷從道



保証人

廣島縣士族

村上敬次郎



外務大臣伯井上馨殿

6-0357

0449

府縣 鹿野縣 族 鹿野縣 生年 大元元年 辛酉 月 日 姓名 西郷 南次郎  
 舊籍名 薩摩 産地 舊名 横文 姓名

父 養父 養母 妻 嗣子 長女

明治十七年 五月七日 御用掛申付候事

五月十三日 公信局勤務申付候事

五月十八日 會計局兼務申付候事

一月十二日 任外務書記生

二月十九日 赴任

三月廿五日 任文藝官試補

七月十二日 下級年俸美價計百八十磅下賜

六月三十日 依願免本官

六月三十日 米國留學ヲ命ス

租與子省トシテ一年銀價千計百圓支給ス

外務省

外務省

履歷

明治十七年	五月七日	御用掛申付候事	外務省
五月十三日	公信局勤務申付候事	外務省	
五月十八日	會計局兼務申付候事	外務省	
一月十二日	任外務書記生	外務省	
二月十九日	赴任	外務省	
三月廿五日	任文藝官試補	外務省	
七月十二日	下級年俸美價計百八十磅下賜	外務大臣	
六月三十日	依願免本官	外務省	
六月三十日	米國留學ヲ命ス	外務省	
六月三十日	租與子省トシテ一年銀價千計百圓支給ス	外務省	

6-0357

0450

明治廿二年五月廿九日  
同日  
廿一月廿一日

大臣

大司馬  
周子升

人事課

博士

物産を振興し教育を普及せしむるに  
由るべきに依りて

支費を省し且て  
其國を富強せしむるに

得兼自ら我國  
に於ては

西宮、高野、津波、  
等處に於て

廿二年五月三十一日  
記録局接受

外務省

高等學堂の成績を以て  
勸告を以て

其於ては  
其學堂に於て

師範と居りて  
其學堂に於て

門徒の爲學に  
其學堂に於て

其學堂に於て  
其學堂に於て

其學堂に於て  
其學堂に於て

其學堂に於て  
其學堂に於て

其學堂に於て

其學堂に於て

6-0357

0451



廿二年八月六日接愛内藤代簡

人事課

國史館

機密中四十九年

受第六九號

謹啓陳老官費留學生西郷菊次郎へ米  
 國留學ヲ命セラレタルハ將來白耳義國アリ  
 エクセル府大學子校へ入學セシメ外交官必要  
 ノ學科試験ヲ経過セシメラル豫備ノ為ニ  
 有クハ趣并ニ同人義ニ最早右白耳義大  
 學校へ入學、豫備調ヒ居ク哉若し尚小  
 充分ナルキハ向フ何年月向米國ニ引續キ  
 留學スルノ必要有クハ詳細取調由報  
 告可致与本年五月廿七日附機密送付三  
 ハニ郵信ヲ以テ法例示シ趣致由知ル然ル  
 西郷菊次郎白耳義國大學校入學云々  
 ノ義ニ関シテハ客年六月本官ニ於テ赤羽  
 在米國日本公使館  
 臨時代理公使ヲ事務引継、際同代理  
 公使ヲ何等、申継モ無ク且又本省ト  
 往復公信中ニモ學ニ西郷菊次郎ハ官費留  
 學、辭令書下付シ件ヲ記載シタル機密  
 信(明治廿年六月廿日附機密送付六二号及  
 全七月廿八日附機密送付十八号)、外ハ何等  
 件ニ関スル書類無之ニ付一應本人ヲ呼寄セ  
 聞合セカ交本人ニ於テ前顯白耳義玉大學  
 校云々ノ件ハ最初より毫モ承知致シ居不  
 中由ニテ即ケ別紙辭令書寫、外ハ同人留  
 學ノ件ニ関シ何等、公命ヲ受テタル事無ク  
 又當時米玉留學ヲ命セシメ節九鬼公使ヨリ  
 モ右等、罪ニ付何、申聞モ無クニ自當時ハ

6-0357

0453

勿論其後トテモ白耳義大學校入學部備  
考同一人ニ於テ起ス様々無ク留學子持合申  
後ハボルチモール府ヅヨンス、ホフキンス大學校  
ニ於テ只管政治及歴史、西學科ヲ專修  
四部科トシテ考テ（右兩科月々今一ケ年ヲ以テ  
卒業スヘキ筈ト由）

右ハ法系亦一類トシ事情頗フル觀點致成  
以得其同人ニ於テハ白耳義大學云々ノ件ハ同  
人申カ、通リ全ク初ノヨリ承合致成中サレ共  
確然タレハ今日迄同大學入校ノ豫備ヲナサレ  
リシモ之ニ對シ何等申出ツキ康モ無ク様々  
能ク危モ同人今後ノ處分ニ關シテ一再能  
ハ法則ヲ守ル如何様ニモ取付テ先

在米國日本公使館

右條目若中進ク致具

明治廿二年七月九日

特命全權公使 陸奥宗光

外務大臣 伯大隈重信 閣下

西郷菊次郎

米國留学ヲ命ス

但シ學費トシテ一ヶ年額僅  
子到る國去給ス

明治廿年六月卅日

外務省

在米國日本公使館

6-0357

0455



明治二十一年十一月十三日

特命全權公使 陸奥宗光

外務大臣 伯耆 松平 信 内 下

在米國日本公使館

6-0357

0457

